

一、趣旨

「かみだし」という古い形式を借りたりけれども、本会の意図は
左に述べた戦争以来なかに向志を失った郷土に對する憧
憬と愛情を、群馬縣人とくに児童に呼び起こそう
起しようという新らしい試みがある。それでは「かみだし」としては
型破りの斬新なしかも美し、之句と繪とも採用し児童の心
に詩を興えよと共々、科学的な解説を附して、科学的精神
の立場をほかり、以て新らしい日本をきおきあげたため
のよさをあらわすことに努めたものがある。

二、内容

1. 郷土を介する「歴史的人物、史蹟名勝、名産等
の紹介」… 寄つていろいろの中に盛りこんでいる。
— 恩賜 群馬縣司 包愛 斐々

2. 次種は 野宮著書案により、一般の公平な見地から採られた。
3. 草書集「ちんを科のうへ、上毛縣歌のもの、地物、土産、究極、
この名よりなる」に毛かるた編集委員の意見に於て吟味決定した。
4. 解説は、ゆい人かくなを資料と當地調査により、確実を期した。
5. 文句はすべて新假名遣いとてきりかき、制記漢字を用いた。
内容は次の通りである。

- い 伊香保温泉日本の名湯
- ろ 老農 船津 藤次平
- は 長山公園つゝじの名所
- に 日本でしぬ初の家司 柳 穂
- ほ 崎るふ家 田山 艾枝
- へ 牙根の使徒 新島 實
- と 利根は 段 東一ノ川
- ち ちから 巨せき 百太十力

01506
54
群馬県立文書館

21 上毛かるた趣旨

昭和

上毛かるた作成の趣旨を記した手稿の写し。

恩賜財団群馬県同胞援護会の便箋に書かれており、上毛かるたが「郷土に對する憧憬と愛情を、群馬縣人とくに児童に呼び起こそう」とする目的で企画されたことが読み取れます。かるた制作の理念を伝える貴重な資料です。

西片恭子家文書『[上毛かるた趣旨]』(P01506 54)